水試の何でも魚（ウオ）ッチング No.51

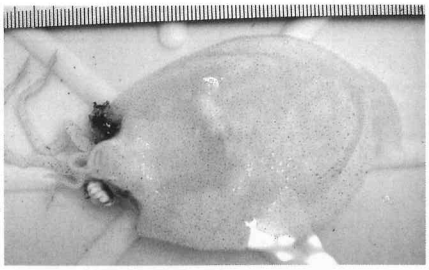
山形県沿岸で地球温暖化現象は起きているか？

最近、地球温暖化や異常気象の話題がマスコミを賑わしています。そこで今日は、水産試験場の漁海況担当の立場から「山形県沿岸で地球温暖化現象は起きているか？」について、お話ししましょう。

①暖水系の魚介類の増加

先日、豊浦支所の弥恵丸さんから珍しいイカが獲れたとの連絡が水産試験場にありました。早速持ち帰って調べたところ、サメハダホウズキイカ（写真）という南方系の非常に珍しいイカでした。ここ5年ほど水産試験場には珍しい魚が獲れたので調べてくれという依頼が増えていて、ほとんどが今まで山形県では獲れていない暖水系の魚介類です。

山形県沿岸の漁獲物では、以前はわずかしか獲れなかったサワラの漁獲量が平成11年以降急増していたり、キダイ（キンコダイ）の漁獲が一般化したりといった変化がみられます。



● サメハダホウズキイカ

また、ブリの北上回遊では、1980年代までは男鹿半島までだったものが、最近では北海道にまでに拡大しています。（富山水試　井野氏より）

②海面水温の上昇

「日本海の中部海域（山形含む）の海面水温の上昇率は、100年で1・6℃で地球全体での上昇率（0・50℃）よりも大きな値となっていて、地球温暖化の影響が現れている可能性があると考えられます。しかし、自然変動の影響を受けやすい海域のため、水温の上昇が必ずしも全て温暖化の影響といえるわけではありません。」（平成19年5月気象庁発表「海面水温の長期変化傾向（日本海）」より）。

山形県の沿岸定地水温（鶴岡市加茂水産試験場前）の1942年以降の変化をみると、10年以上の単位で温暖な期間と寒冷な期間を繰り返しています。ここ30年では、1989年頃までの寒冷な期間の後に、現在まで温暖な期間が続いています。ただし、100年で1℃程度の上昇傾向も併せてみられます。

③潮位の上昇

「ここ100年の日本沿岸の海面水位には、地球全体の海面水位のような単調な上昇はみられません。1950年ころに極大がみられ、また約20年周期の変動が顕著です。一方で、1980年代半ば以降（1985～2006年）については大きな上昇率（3・3㎜／年）となっています。」（気象庁HPより）

山形県では、国土地理院の鼠ヶ関検潮場のデータをみると、過去40年間で10㎝程の潮位上昇がみられます。

以上のことから、山形県沿岸では近年、海面水温の上昇、潮位の上昇、暖水性の魚介類の増加といった変化がみられますが、自然変動の影響も考えられ、すべての現象が地球温暖化の影響と断定することはできない状況です。

ただし、地球温暖化が現実のものになった場合には、元に戻らず取り返しのつかないことになりますので、(1)地球温暖化を監視しながら、(2)CO_2排出量削減の努力を続けるとともに、(3)温暖化が進んだ場合の対応策についても事前に検討しておくことが必要だといえるでしょう。

水産試験場海洋資源部　石向　修一

● 新登場！！変動金利型生活ローン